



木造仮設住宅デザイン提案大競技会2025

「いつでも建てられる、いつまでも住める」 次世代の仮設住宅デザイン提案

審査会スケジュール

【応募期間】2025年9月1日月曜日～9月30日火曜日

【森の見学会・勉強会】2025年6月28日土曜日10:00～
詳細は後日JIA東海支部ホームページにて発表（定員有）
会場：岡崎市明見町田代9-1岡崎森林組合、天使の森など
※応募にあたって参加が必須条件ではありません。

【1次審査会】2025年10月12日日曜日
非公開審査

【1次審査結果発表】2025年11月上旬
JIA東海支部ホームページにて発表

【2次公開プレゼンテーション・最終審査会】2025年12月6日土曜日13:00～
詳細は後日JIA東海支部ホームページにて発表
会場：名古屋市中村区名駅 3-28-12
名古屋ビルディング 12F TOTOテクニカルセンタープレゼンルーム

【表彰式】2025年12月13日土曜日15:00～
詳細は後日JIA東海支部ホームページにて発表
会場：岡崎市明大寺町西郷中39-7葵丘ビル（名鉄東岡崎駅徒歩1分）

審査員長
北川啓介
名古屋工業大学大学院教授



審査員
高野洋平
MARU. architecture代表
千葉大学大学院准教授



審査員
清水秀丸
椋山女学園大学講師



木造仮設住宅デザイン提案大競技会2025「いつでも建てられる、いつまでも住める」

次世代の仮設住宅デザイン 応募要領

1、主旨

日本は地震大国であり、いつどこで大地震が発生するかわからない。そこで本競技では、「災害が発生する前に備えられ、被災後も快適に住み続けられる仮設住宅」であり同部材における住宅、非住宅に活用できる快適な木造建築を造るシステムやデザインを建築に係わる方から募集する。
従来の仮設住宅の概念を超え、機能性・デザイン性・持続可能性を兼ね備えた次世代の仮設住宅を提案することで、社会や地域の課題解決に資する建築のあり方を探求する。

2、本競技の求めるもの

- ・いつでも迅速に建てられる仮設住宅のアイデアを創出する。
- ・被災者が快適に生活できる住環境を提供するデザインを考案する。
- ・木造資材を活用し、持続可能かつ耐震性に優れた建築の可能性を探る。
- ・「自然システム」「社会システム」への提案を行うこと。

3、応募資格

建築・デザインを職業とする方又学ぶ学生（個人またはチーム）

4、応募要件

- ・床面積29.7㎡（9坪タイプ）2～3人用とする。
- ・愛知県岡崎市産の木造資材を主要構造として活用すること。（岡崎市産木材の規格表を配布する）
- ・組み立てが簡単で、迅速に建設可能であること。（被災者自らが建築に参加できる）
- ・実在の敷地でなくても良いが、愛知県の矢作川流域に設置する前提とする。
- ・一定期間（例：1年以上）快適に住み続けられるデザインであること。
- ・環境に配慮したサステナブルな素材や設計を取り入れること。

5、1次審査提出物【ユニークなアイデアの5作品を選出いたします】

設計図面（コンセプト、平面図、立面図、断面図、パース、CG、模型写真など）

A3サイズ2枚（横使い）に収めること。

PDFシートデータA3サイズ2枚（20MB以内）を以下のGoogle Formより送信してください。

作品内に氏名を記載しないこと。

※応募作品は大容量データ送信サービス（データ便等、パスワード指定なし）で送信し、URLをGoogle Formに記載してください。

※ Google Form URL <https://forms.gle/3twQxu6t4ZaAeCPa8>



6、最終審査提出物

設計図をプレゼンテーション用にPDFデータにまとめたもの
模型（縮尺自由）

7、審査基準

迅速性・施工性	短期間で建設できるか
住み心地・デザイン性	快適な生活空間が確保されているか
	災害時でも安らぐデザインになっているか
耐久性・安全性	地震や気候変動に耐えうる構造か
環境負荷の低減	持続可能な素材・技術を活用しているか

8、審査員

審査員長	北川啓介（名古屋工業大学大学院教授）
審査員	高野洋平（千葉大学大学院准教授）
審査員	清水秀丸（椋山女学園大学講師）

9、表彰・賞金

最終審査選出作品（5作品）：賞金5万円

参加者全員に参加証明書

※受賞作品は建築業界の専門誌や展示会で発表予定、小冊子を発行予定

10、著作権および応募作品の取り扱い

応募作品に係わる著作権は、元来第三者に帰属するものを除き、応募者に帰属するものとします。ただし、応募作品に関する公表、展示等については応募者の承諾なしに主催者が使用できるものとします。

11、最終審査選出作品の実現性について

本コンペを通じて、災害時に「仮設」ではなく「住みたくなる家」としての建築を提案し、社会に貢献する新たな可能性を探る。将来的には、受賞作品の試作・実証実験を行い、実際の防災計画に活かすことも視野に入れる。

12、最終審査選出作品実現の枠組み

試作、実証実験を行うにあたって建設チーム（仮称）を編成し、協働して実現する。
メンバーは当選者のうち希望者（複数可）、審査員、JIA会員、木材関係者、施工者、行政などで構成する。

13、公開審査会の情報公開について

審査時に記録される写真および動画映像はJIA東海ホームページなどで公開する場合があります。

14、森の見学会・勉強会

応募にあたって必須条件ではありませんが、現在の山の状況を知る貴重な機会です。積極的な参加を期待します。